海体験 in 江田島

三原市立小坂小学校　　対象学年（５年）

体験活動の種類　社会奉仕　自然　勤労生産　文化

体験活動場所　国立江田島青少年交流の家

【学校紹介】

○　本校は，全校児童７７名，６学級の小規模校である。三原市中心部より約７km西に位置する田園地帯にあり，児童は普段，田畑を学習フィールドにしたそば作りや米作りなどの体験活動を行っている。

「豊かな心の育成」においては，三原市内の全小中学校が取り組む「早寝・早起き・朝ごはん・読書・あいさつ・靴そろえ」を基本にし，児童が達成感を味わい，自己肯定感を醸成するためのボランティア活動などの体験活動に取り組んでいる。

また，「ことばを大切にする学校」を合言葉に，全教育活動を通して，正しく聞き取り（読み取り），自己の考えと比較し，正しく表現できる児童の育成に取り組んでいる。

○校長名：東　佐都子
○児童数（学級数）：７７名（６学級）
○所在地：三原市小坂町 3515 番地
○電話番号：0848-66-0240
○ＵＲＬ：http://www.mihara.ed.jp/~osaka-es/index.htm

学校全景

【体験活動のねらい】

○　自然体験や奉仕体験などを通して，自然を愛でる気持ちや粘り強さ（我慢する心）・危険回避能力を身に付けようとする児童を育成する。

○　集団宿泊活動や学校外の人々との交流を通して，コミュニケーション能力を高めるとともに，他者を思いやる心・感謝の心・自信ある行動・協調性・規範意識・礼儀作法を身に付けようとする児童を育成する。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
５月 ～ ６月	**事前学習，準備** ・学習テーマの設定 ・活動計画，準備 ・「イルカの命を守ろう」３－（２） ・料理って楽しいね ・日本の水産業	１１	総合的な学習の時間 道徳 家庭 社会	学校	校長 教頭 担任 養護教諭
６月	**長期宿泊体験（３泊４日）** ・漁業研究施設見学 ・磯の生物観察 ・カヌー体験 ・野外炊事 ・奉仕体験（施設清掃） ・漁業体験(交流体験) ・藻塩作り	２４	社会 理科 家庭 体育 特別活動 総合的な学習の時間	県立海洋技術センター 国立江田島青少年交流の家 沖漁港 県民の浜	教頭 担任 施設職員 大柿自然環境体験学習交流館職員 沖美漁協 藻塩の会

6月21日 ～ 11月4日	事後学習 ・御礼の手紙 ・「ありがとう上手に」2－(5) ・振り返り ・成果発表会の準備	１５	国語 道徳 特別活動 総合的な学習の時間	学校	校長 教頭 担任
11月5日 ～ 12月	成果発表会（11/5） ・体験発表 ・成果発表会のふり返り	２	総合的な学習の時間	学校	担任

【体験活動の概要】

○交流体験

（１）長期宿泊での交流

「集団生活をするためのきまり」を守る必要性や，他者と協調したり協力したりする必要性を経験させる場が多く，「人間関係形成能力」を育成する好機となった。

朝・夕のつどい

（２）他団体と一緒に行う「朝・夕のつどい」での交流

司会や体操係，団体紹介などの機会を通して，自信や責任感を持たせたり，育てたりすることができた。

児童が清掃奉仕活動を行ったことについて施設職員の方が他団体に紹介してくださった。他団体の拍手を受けながら，子どもたちは「人のためになることを行った充実感や心地よさ」をさらに味わうことができた。

（３）漁業従事者との交流

子どもたちのインタビュー活動等をとおして，実際に漁業に従事されている方の生の声を聞くことができ，漁の厳しさと喜びを知ることができた。

どんな仕事にも，厳しい面はあるが，まじめに一生懸命やることで大きな喜びを味わうことができるということを学ぶことができた。

体験後に子どもたちが書いたお礼の作文を漁協組合員の方が読んでくださり，「うれしくて涙が出た」と電話してくださった。子どもたちの心がその方に伝わったのだと思われる。

＜留意事項＞

交流体験では，児童の課題であるコミュニケーション能力を高めるとともに，自信をもって行動すること，規範意識や礼儀作法を身に付けさせたいと取り組んだ。そのため，「あいさつ」や「ことばの力の活用」など日常的に指導を行い，実践力をつけておくように努めた。

○奉仕活動

奉仕体験は，雨天のため，当初の予定を変更して，国立江田島青少年交流の家の講堂と体育館の清掃奉仕を行わせた。子どもたちは，「３泊４日の間お世話になっている施設をきれいにしよう」と，約２時間，熱心に清掃を行った。この活動では，学校生活で培った掃除の技術を生かすことができ，隅々まで清掃することができた。

施設内のボランティア清掃

＜留意事項＞

雨天のため，当初予定していた「海岸のゴミ拾い」から「施設内の清掃活動」に変更した。活動前の児童には，日頃から学校生活の中でも進めているボランティア活動のことを想起させ，改めて奉仕活動の意義を考えさせた。また，「お世話になっていることへの感謝の気持ちを清掃で表そう」と意欲を喚起した。

○漁業体験

漁業体験（地元漁師さんとの交流）

実際に漁船に乗り「さしあみ漁」と「たこつぼ漁」を体験した。地元の沖漁業協同組合の漁師さん３名に指導を受けながら，網にかかった魚を外したり，たこつぼ漁の様子を見学したりした。日頃，田園地帯で育っている子どもたちにとっては，「漁業」を体験する機会は全くない。

普段は早朝に上げる網を子どもたちの体験に合わせ，１０時頃まで海に入れたままにしてくださった。引き上げ時間を延ばしたため，網にかかった魚がタコに食べられていた。自分たちの学習のために，漁師さんの水揚げが減ってしまったことを知った子どもたちは，自ずと感謝の気持ちが湧いてきたようであった。

さらに，子どもたちは漁師さんから直接お話を聞くことで，漁の厳しさと喜びを知ることができた。どんな仕事でも，厳しい面はあるが，まじめに一生懸命やることで大きな喜びを味わうことができるということを学ぶことができ，子どもたちにとっては，キャリア教育としてもたいへん効果的な活動となった。

＜留意事項＞

教科学習（社会）との関連を図り，事前に日本の沿岸漁業について学習を進めた。交流相手となる漁師さんとは，学習効果が高まるよう，活動のねらいや児童が考えているインタビューの質問内容をお知らせするなど，事前連携を行った。

【体験活動の効果を高める事後学習】

○　宿泊体験後に，自分たちが学んだことについて振り返らせ，学校生活の中で実践していこうとする意欲を育てるために特別活動の授業を行った。

振り返り活動

（１）教科等：特別活動（学級活動）

（２）単元名：「海体験ｉｎ江田島」を振り返って
～成長したこと，これからも頑張ること～

（３）ねらい：「海体験 in 江田島」を通して目標が達成できたかを振り返り，自らが成長したことやこれからも頑張りたいことを考え，よりよい学校生活への実践意欲を高める。

（４）展　開：

①　本時のめあてを知る。

体験学習を通して成長した自分に自信を持ち，これからの学校生活に生かそう。

②　付箋紙に書いた個々の「振り返り」を模造紙に貼って交流する。

③　できたことや，課題について「振り返り」を分類する。（話合い活動）

④　分類したものにネーミングし，発表ができるようにまとめる。（話合い活動）

⑤　班でまとめたことを発表する。

⑥　一緒に宿泊体験に行った教頭先生から話を聞く。

（５）授業における留意点

・　児童一人一人が体験活動について振り返ったことを，ワークショップ形式で分類したり

交流したりすることで，成果と課題を明確にさせる。（個々の「振り返り」を深める）

・　事前調査の結果から，数値の低かった「他者への思いやり」「感謝」「我慢」「自信」「自立性」のほか，事業のねらいである「自律性」「協調性」及び「コミュニケーション能力」についての児童の変容を見取る資料として，付箋紙の記述や発言等を用いた。

・　本時の活動により児童が自らの成長や課題に気づき，今後の生活へ生かそうとする実践意欲が高まるよう，終末に，指導者からの評価を伝える場を取り入れた。

【交流先や施設等との連携】

○　プログラム編成に関わって，「本物の体験」ができるための講師を探し，電話やメール等を活用して打合せを行った。その後，事前の現地調査の際，講師と直接会い，最終的な打合せを行った。

○　特に，講師に活動の「ねらい」や，学校側がお願いしたい「指導内容」をしっかり理解していただくよう，事前の連携を密に行った。

大柿自然環境体験学習交流館の館長さんを講師に迎えて

【評価の工夫】

○　体験学習のしおりに毎日の「振り返り」欄を作る。

○　宿泊体験の終了後に作文を書く。

○　振り返りの授業（前頁）を設定する。

○　成果発表会の発表原稿を作成する。

○　日々の生活態度や運動会等の学校行事への取り組み状況を観察する。

【安全面の配慮事項】

○　危険回避のために，次の点について事前学習を行った。

・野外炊事：包丁での皮むき等の実習，なたの扱い方，火のつけ方，熱湯の運び方　等

・カヌー体験，漁業体験：ライフジャケットの身につけ方，海での浮き方　等

○　養護教諭を引率者に加え，けが等に対する対応を図った。

○　傷害保険に加入した。（掛け金：100 円／一人）

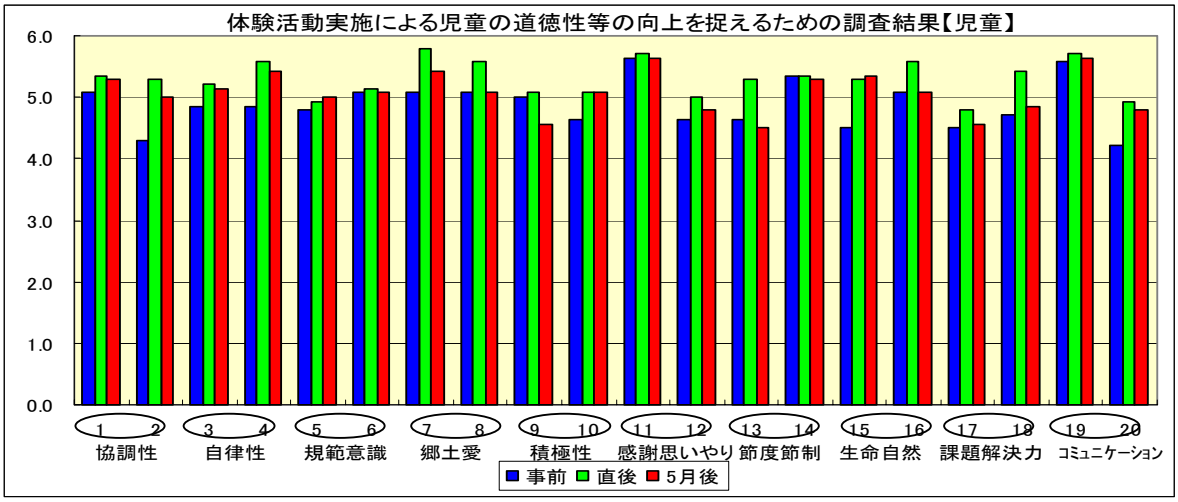
ライフジャケットを着て（カヌー体験）

【体験活動の成果と課題】

成果	・　体験の５ヵ月後に行った意識調査の結果は，体験活動直後のものより数値は低くなったが，体験活動前の意識調査よりも高い数値を示した。また，行動面の多くに，児童の心の成長を見ることができた。 ・　日常生活や成果発表会で見られた児童の姿から，保護者にも，長期宿泊体験の効果を理解してもらうことができた。 ・　成果発表会を広く公開したことで，地域住民にも長期宿泊体験の効果を理解してもらうことができた。

○質問紙調査の結果からとらえた児童の変容

児童・保護者を対象に，事業で指定された調査（６段階評定尺度法）を，「事前」（5/31）「直後」（6/18）成果発表会後（11/9）の３回実施した。結果は，次頁のグラフのとおりである。



実施直後の調査結果では，全ての質問項目で，道徳性に関する意識の向上が見られた。特に２番，４番，７番，８番，13 番，15 番，16 番，18 番，20 番でその傾向が強く現れた。指標でいうと，特に「自律性」「郷土愛」「生命尊重・自然への関心」について，大きな向上傾向がうかがえた。

５ヵ月後の成果発表会後は，多くの項目で実施直後に向上した意識が低下傾向にあるが，10 番の「積極性」（自分のよいところがわかる），15 番の「生命尊重・自然への関心」（花や風景など美しいものに感動できる）の項目については，意識の向上が持続していることが分かる。

また，２番「協調性」，４番「自律性」20 番「コミュニケーション」などは，実施直後よりは意識は低下したが，実施前と比べると依然として意識が高いことが伺える。

○行動観察からとらえた児童の変容

（１）宿泊体験期間中

・周囲の人への感謝の気持ちを表そうとする言動が出てきた。
・様々な人との交流の中で，自信を持って会話や行動ができるようになってきた。
・奉仕体験・点検活動をとおして，最後までやりきろうとする態度が見られた。

（２）宿泊体験終了後

・素早い集団行動が増えた。
・積極的に学習を行いたいという発言が増えた。
・自己中心的な言動がなくなってきた。
・自分の考えを堂々と発表できるようになった。
・自然への関心が高まった言動が増えた。
・最後まで粘り強く取り組む態度が増えた。
・「ありがとうございます」と感謝の気持ちを表す言葉を言えるようになった。

成果発表会

課題	・いったん向上した道徳性等の意識を維持させるため，学校における事後学習を工夫する。 ・学校独自で長期宿泊体験が実施できるよう，経費負担を軽減するための実施方法の工夫や改善を図っていく。